

2021年7月30日 決算説明会 質疑応答 (抜粋)

Q：新型コロナウイルス関連商品売上の状況はどうか。

A：マスクや消毒液等は昨年に比べて売上は減となっている一方、PC関連商品等のリモートワーク関連商品の売上は昨年から減少していない。

Q：東京オリンピックの事業への影響はあるか。

A：影響は無いと見ている。足下の7月のみだけ見ると祝日が増えたことによる営業日数減の影響は受けるが、下期売上がオリンピックの影響を受けない。

Q：MonotaROの本社人員の成長の伸びが2021年度第1四半期から第2四半期にかけて強いが、データサイエンティスト、ITエンジニア、購買管理システム事業（大企業連携）関連人員の採用が順調なのか。

A：それら要素もあるが、第1四半期から第2半期で伸びているのは、新卒入社が29名が主な要因。

Q：Grainger社のZoroビジネスが売上・利益共に伸びてきており、MonotaROが受領するロイヤリティも下期にかけて成長が期待できるのではないか。

A：Zoroビジネスでは、注力したい顧客にマーケティングできるようになってきたこともあって、利益面で向上している。今後は取扱商品点数増を通じて売上増を図る見込み。そのためには投資も必要になってくるので、短期ではなく長期的な成長につながる施策が必要。

ただし、当社MonotaRO側の売上規模が拡大するため、ロイヤリティの当社売上へのインパクトは小さくなる。

Q：インドやインドネシアは新型コロナウイルス感染者が増えているが、事業計画に遅れなどは出していないか。

A：これら2ヶ国において新型コロナウイルスの影響が再び拡大し売上への影響も出ているが、そのような状況の中でも将来成長に対してはしっかり取り組むことができている。インドでは住所整備が不十分である等の日本にはないサプライチェーンに関連する問題がある事業環境ではあるが、現地チームの改善スピードが速く強いポテンシャルを感じている。

以上